加茂遺跡における弥生時代の水田跡の紹介

松尾　実

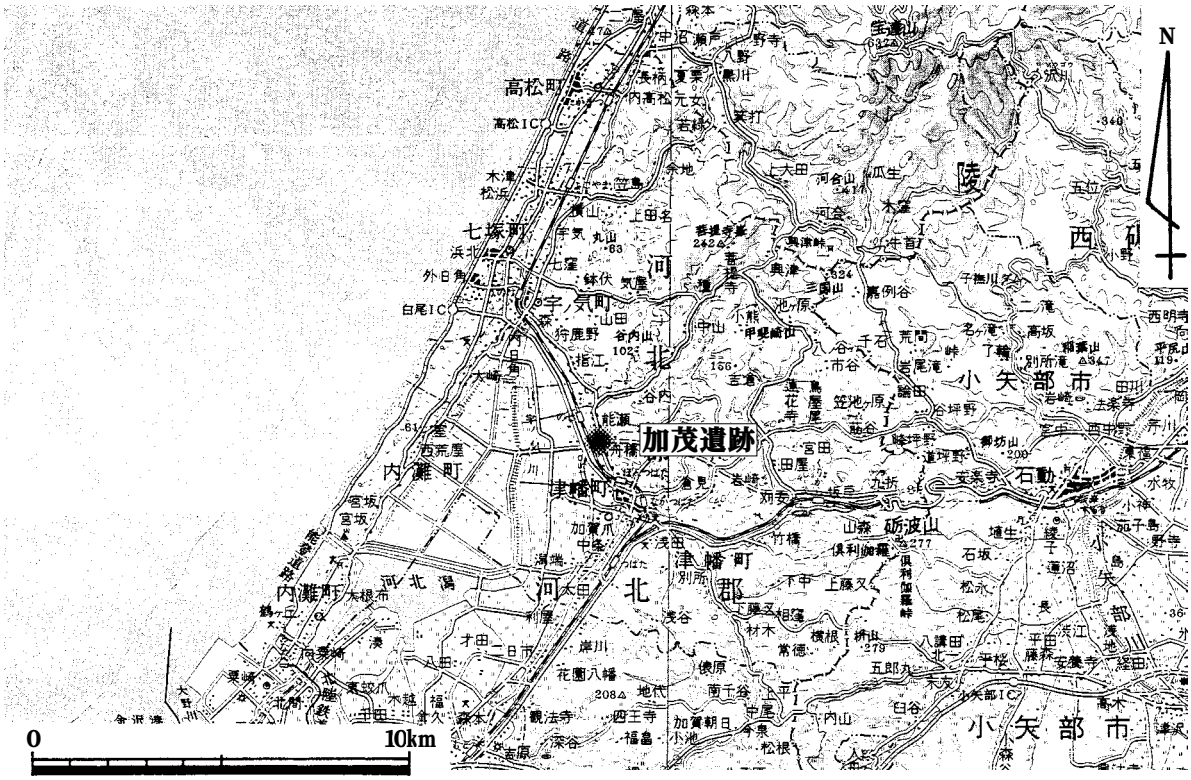


図１　遺跡位置図

はじめに

今年度、津幡町所在の加茂遺跡第８次調査において、Ｂ区第４面で弥生時代の水田跡を検出した。北陸地方（注１）における当該期の水田遺構は例が少なく、弥生時代研究の一端を担う具体的な資料の一つとして将来重要性を増すと考える。整理作業中であるが、当該遺跡の水田跡の紹介を目的として、報告する。

地理的・歴史的環境

宝達山を主峰とする宝達山系の南に位置する津幡・森本丘陵西麓には、数々の谷が入り込み、複雑な地形をなす。また、それらから派生する中小河川は河北潟に注ぎ込み、沖積地を形成している。加茂遺跡周辺は東側の丘陵より派生する舟橋川によって形成された三角州上（注２）に立地する（図１）。

弥生時代における当該遺跡周辺には領家遺跡、谷内石山遺跡、能瀬遺跡、庄住吉神社遺跡、加茂Ａ遺跡を数えるが、具体的な様相は解明されていない。一方、加茂遺跡では第５・６・７次調査で弥生時代中期の建物跡等、後期の建物跡等が確認されている。今後、これら居住域と生産域の関連性、環境復元、動態が研究されれば、より具体像が浮かび上がると考える。

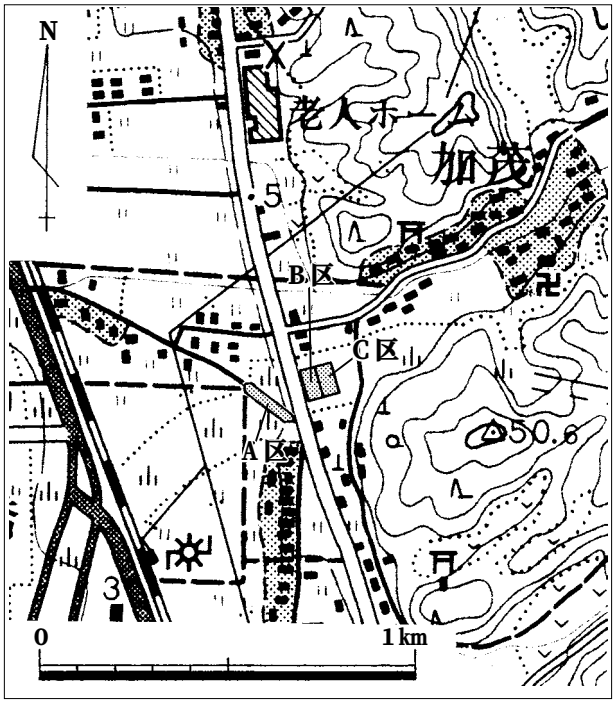


図２　調査位置図

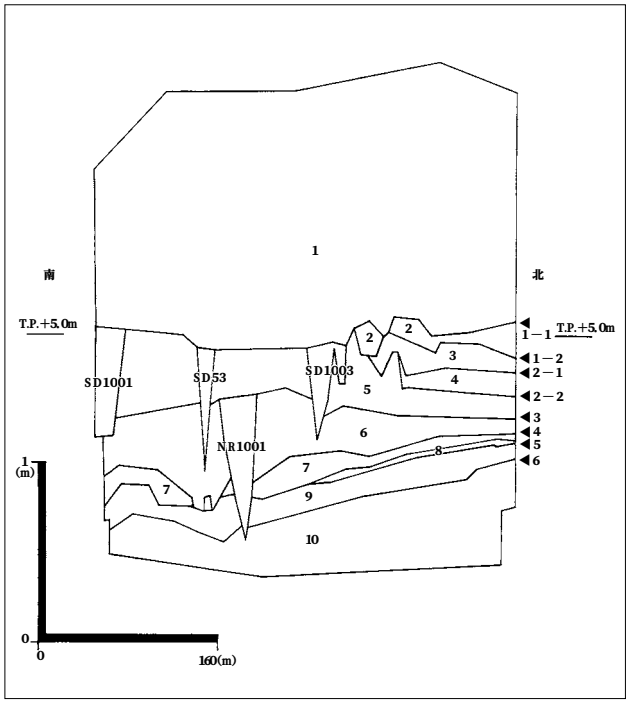


図３　Ｂ区西壁断面模式図

調査成果概要

調査区は西から順にＡ、Ｂ、Ｃ区と設定した。（図２）今年度の主な調査成果としては、古代では建物群、北陸道の一部（道路側溝）、大溝と他方から流れ込む溝の合流地点、地震痕跡（砂脈）等がある。古墳時代では流路等を確認した。弥生時代では建物跡や礎板を多数検出している。

当報告を行うＢ区は平成13年度の第６次で第１面を調査しており、今年度はそれより下層の調査を行った。検出面は２面から６面までで、部分的に調査した面も含め、合計８面を調査している。また、縄文時代の包含層の有無を確認するべく下層確認トレンチを設定・調査（注３）した結果、縄文時代後期～晩期の包含層を認めた。

水田面はＢ区第４面で検出している。Ｂ区４層（図３の７）の相当層は、Ａ区でも確認できるが、畦畔は認められなかった。Ｃ区は１面のみの調査で終了したため、それより下層は来年度以降の調査となる。

基本層序

１（０層）　表土である。耕作土として連綿と堆積している。古代以降の遺物の破片を含む。

２（１－１層）灰色（５Y5/1）粘土～浅黄色（2.5Y7/3）シルトである。調査区北側半分に堆積している。時期は古代に属する。

３（１－２層）浅黄色（2.5Y7/4）シルト混じり粘土～黒褐色（10YR3/1）粘土混じりシルトである。調査区北側半分に堆積している。時期は古代である。

４（２－１層）灰色（N6/0）粘土である。炭、土器片を多く含む。調査区北側半分に堆積している。時期は古代である。

５（２－２層）灰色（５Y5/1）シルト混じり粘土～灰色（５Y6/1）シルト混じり細砂である。下部には厚さ３㎝～５㎝の炭粒層がめぐり、調査区全体に認められる。調査区南側は標高

が高く、南側では低くなる。時期は古墳時代頃である。

6（3層）　黄灰色（2.5Y5/1）シルト～黄灰色（2.5Y5/1）細砂混じりシルトである。南側になると、植物遺体を多く含む青灰色（5B6/1）シルトの堆積層があり、下部ではラミナが随所に見られる。洪水砂と考える。調査区南側で標高が高く、北側では低くなる。時期は弥生時代中期～古墳時代に相当する。

7（4層）　褐灰色（5YR5/1）シルト混じり粘土である。土器片は含まれない。堆積層は、北側では薄く、南側に向かって厚くなる。時期は弥生時代中期頃と考える。

8　灰白色（2.5Y7/1）微砂である。調査区北半分に堆積している。間層として捉えることができる。南半分では当該層は見られなくなる。

9（5層）　黒褐色（2.5Y3/1）粘土である。層厚約20㎝で汎的に堆積している。北側から南側に向かって標高が低くなっていく。弥生土器片や石器を多く含む。時期は弥生時代中期頃に相当する。

10（6層）　明青灰色（5BG7/1）粘土～灰色（N6/0）粘土である。北側から南側に向かって標高が低くなっていく。時期は弥生時代中期以前と考える。

調査成果の概要　－第４面－

調査区南壁断面の土層観察で３層の下部にラミナの堆積と畦畔状の高まりが確認できたので、平面での検出作業を行った。標高は、T.P.＋4.2m～T.P.＋4.7m である。

調査区北半分は、第４面のベースである４層が薄く、３層を除去すると５層が見える個所や、掘り過ぎた個所があるので、畦畔を検出できなかった。また、北東から南西方向と南東から北西方向の水流痕跡を２条検出した。埋土は植物遺体（トチ類などの落葉樹）を含む。水流痕跡は畦畔を切っていることが認められるので、水田を造成した後にできたと推定できる。

調査区南半分では、西側に広い範囲で落ち込みがあり、植物遺体（トチ類などの落葉樹）が集中している個所があった。東側は微高地であり、そこから畦畔を検出している。畦畔の幅約45㎝、高さ約５㎝を計る。整然と区画されたものではなく、自然の傾斜に即して区画されている。足跡等は田面になかった。面積は田面１で約８㎡、田面２で約27㎡となる。自然地形に即した小区画の水田といえる。また、調査区南端では、東から西方向の水流痕跡が畦畔を切る形で検出できた（図４）。

４面では、造成された水田の畦畔等が洪水によって削り取られた後、自然流路ができたと推定する。

時期

２層上面で検出した SD1001、SD53、SD1003等の時期は、古墳時代前期～古代に相当する。第３面で検出した NR1001では、弥生時代中期後半～後期の土器群が出土している。第４面検出の SD1011、SD1012は、弥生時代中期後半～後期前半の遺物が出土しているが、５層中の混入もあると考えられるので、慎重に期したい。５層は弥生時代中期後半頃の土器等を多く包含している。

よって、第４層の時期を弥生時代中期後半～後期前半の範疇で捉えたい。私見では水田の時期を弥生時代中期後半頃と想定する。整理作業が進めば、より具体的な年代が推定できよう。

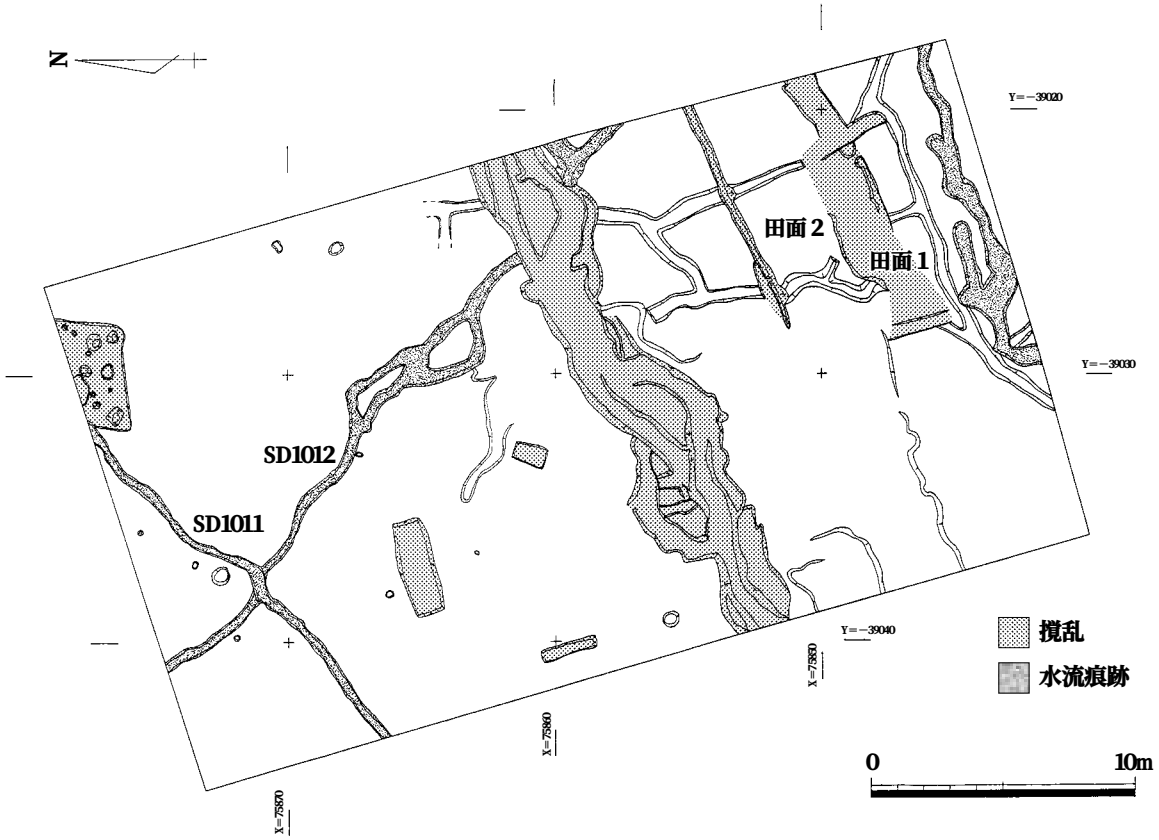


図４　Ｂ区第４面平面図

まとめ

当該調査において、弥生時代中期後半～後期前半の水田跡を検出した。小区画の水田は微高地上に立地しており、自然地形に即して畦畔が造成される。鳥瞰すると、当該遺跡は東方の谷から派生する自然河川によって形成された三角州上に立地しており、自然地形を利用して水田を営んでいたと推定する。近隣には集落の存在が想定でき、小共同体の生産域と考えられる。稲作農耕を具体的に示す水田跡の事例は北陸地方では多くない。将来、自然化学分析の結果や時期等の検討から、より具体的な様相を示して、弥生時代研究の進展に役立てたい。

おわりに

水田調査は、全国的に見ても調査技術の水準が年々高くなっており、調査時での問題意識や方法論も多岐に及んでいるのが現状であり、調査技術の向上を真摯に行わなければいけないと痛感している。弥生時代における畑作の調査事例（注４）もでており、問題意識をもって、なお一層向上できるように努力したい。当報告をするには時期尚早であると思うが、今後の整理・研究の方向性を定める上で当該資料を紹介したいと考え、できるだけ報告した。これを機会に先学の方々の御指導、御教授を頂ければ幸いです。

最後になりましたが、現地調査を含めて当報告を書くに際して、以下の方々にご教示・ご協力を頂いた。記して感謝の意としたい。

植木真吾氏　青木賢人氏　富山正明氏　中野由紀子氏　橋本澄夫氏　山本千穂氏

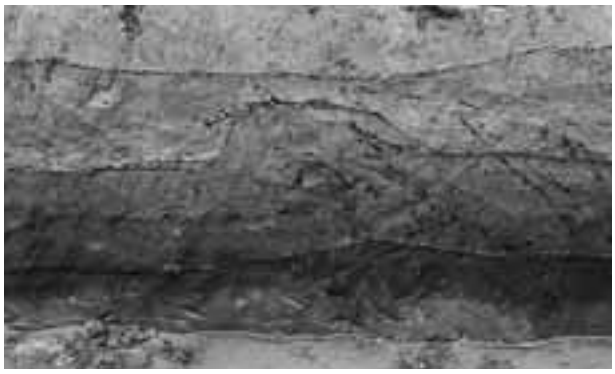
調査区遠景（西から）

B 区第４面（上から）

B 区第４面（東から）

B 区水田跡（西から）

B 区第４面畦畔（北から）



B 区第４面畦畔（北から）

注釈

1　当報告では、便宜的に北陸地方を福井県、石川県、富山県の範囲で捉える。

2　加茂遺跡周辺の地理的環境について青木賢人先生（金沢大学）、山本千恵氏（金沢大学学生）より御教示頂いた。

3　当報告では下層確認トレンチの断面図データは関係がないので報告しない。

4　畑跡の調査事例は、静岡県沼津市高尾上遺跡群等がある。

付記

北陸地方における弥生時代の水田遺構のある遺跡を紹介したい。どれもが整理作業途中のため、今回は検討を控え、提示するに留める。また、水田耕作を示唆する遺構として、用排水路、灌漑施設等があり、これらも含めて考えると、弥生時代の水田経営の実態により迫る事ができよう。今後の成果報告と資料の増加を待ちたい。

北陸地方のおける水田遺構集成			
遺跡名	所在地	立地	時期
下老子笹川遺跡	富山県福岡町	沖積地（複合扇状地扇端部）	弥生時代後期
加茂遺跡	石川県津幡町	沖積地（三角州）	弥生時代中期～後期
梅田Ｂ遺跡	石川県金沢市	沖積地	弥生時代後期
林・藤島遺跡	福井県福井市	沖積地	弥生時代後期

参考文献

金関　恕・佐原　眞編集　1988　『弥生文化の研究　第２巻－生業－』　雄山閣出版

下條信行編集　1989　『古代史復元４　弥生農村の誕生』　講談社

江浦　洋　1991　「弥生時代水田の総合理解のための基礎作業１」
『大阪文化財研究　第２号』（財）大阪文化財センター

（社）石川県埋蔵文化財保存協会　1997　（社）石川県埋蔵文化財保存協会年報８

富山県文化振興財団埋蔵文化財事務所　1997　埋蔵文化財調査概要－平成９年度－

富山県文化振興財団埋蔵文化財事務所　1998　埋蔵文化財年報（９）

兼田康彦　2000　「加茂遺跡」　『（財）石川県埋蔵文化財情報第４号』　（財）石川県埋蔵文化財センター

本田秀生　2001　「加茂遺跡」　『（財）石川県埋蔵文化財情報第６号』　（財）石川県埋蔵文化財センター

座主哲二　2002　「加茂遺跡」　『（財）石川県埋蔵文化財情報第８号』　（財）石川県埋蔵文化財センター

長瀬　出　2002　「富山県における弥生集落の展開」
『富山考古学研究第５号』　（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

東日本の水田を考える会事務局　2002
第10回東日本の水田を考える会「登呂遺跡の再発掘成果と水田跡・畑跡研究の現状－資料集－」

藤　則雄　2002　「能登南端部　津幡～宇ノ気丘陵の地形・地質」
『文化財論考２号』　金沢学院大学美術文化学部文化財科